

人工海浜における夏季利用者の海岸ゴミに対する意識調査

千葉工業大学 学生員 ○米田 規幸
千葉工業大学 本田 徳裕
千葉工業大学 矢島 秀二
千葉工業大学 鈴木 大介
千葉工業大学 正会員 矢内 栄二

1. はじめに

海岸は、1年間を通じて多様な目的で多くの人に利用されているが、一般的に海岸と聞いて「夏・海水浴・若者」という図式を思い浮かべられるとおり、夏季に利用者が集中する。海岸利用に関しては、良好な海岸環境の保全および海岸の利用の増進を図る上で、海岸のゴミへの対応が重要な問題とされている。本研究では、良好な海岸づくりのための基礎的知見として、海岸利用の集中する夏季に海岸利用者のゴミに対する意識調査を「いなげの浜」を対象に行う。

2. 調査概要

本研究では、図 - 1 に示す千葉県のいなげの浜において、海岸利用者に対するアンケート調査を行った。調査は、2003 年 8 月 11 日、8 月 23 日の午前 9 時 30 分から午後 2 時まで実施した。全調査日とも、表 - 1 に示したように晴天であり利用状況に及ぼす天候の影響はほとんどないものと考えてよい。アンケートの内容は、表 - 2 に示したように、利用者の属性、利用目的と頻度、海岸ゴミに対する評価と関心度など 11 項目とした。



図 - 1 いなげの浜の位置

表 - 1 調査日の天候および気温

調査日	対象者数(人)	天候	気温(℃)	
			最高	最低
2003/8/11(月)	71	晴	31.8	26.1
2003/8/23(土)	122	晴	32.1	24.9

表 - 2 海岸ゴミに関するアンケートの設問内容

設問	アンケートの設問内容
1	性別を教えてください。
2	あなたの年齢を教えてください。
3	あなたは今日誰と来ましたか。
4	あなたは今日、どこから来ましたか。
5	あなたは今日、どんな目的でいなげの浜を利用していますか。
6	あなたが今日、いなげの浜を選んだ理由を教えてください。
7	どのくらいの頻度でいなげの浜を利用しますか。
8	いなげの浜のゴミは多いと思いますか。
9	いなげの浜では定期的にゴミの清掃を行っていることをご存じですか。
10	いなげの浜のゴミの清掃は誰がしなければいけないと思いますか。
11	ゴミを減らす手段として最適なものはつぎのどれだと思いますか。

3. 結果と考察

3.1 海岸利用者の特性

表 - 3 に示したように、現地での調査対象者数は、193 人であり、全体の男女比は 54:46 である。利用者の多くが家族であり、30 代が最も多い。全体的に 10 から 30 代の若い年代層が多いのは、夏季の特徴と考えられる。

図 - 2 は、海岸の利用目的の集計結果を示したものである。これによると、海水浴が全体の 70% を占め、次に、砂浜でのレクリエーションが 16%、散歩が 14% である。この結果から、夏季利用者の大半は海水浴目的であることがわかった。

表 - 3 調査対象者

年齢	男				女			
	家族	友達	一人	その他	家族	友達	一人	その他
～19歳	1	15	0	0	1	23	0	1
20歳～29歳	6	11	5	1	8	6	0	0
30歳～39歳	20	3	7	0	27	4	1	0
40歳～49歳	4	0	4	0	7	2	0	0
50歳～59歳	4	2	2	0	3	0	1	0
60歳～	9	2	8	0	4	1	0	0
計	44	33	26	1	50	36	2	1
総計	104				89			

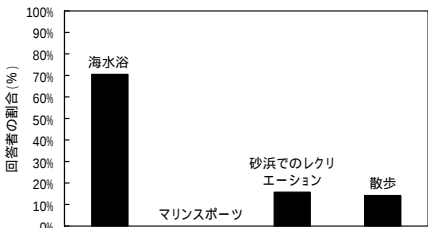


図 - 2 海岸の利用目的

3.2 海岸利用者の意識

図 - 4 は、海岸ゴミに対する印象を示したものである。これによると、「非常に多い」、「多い」と評価した人が、全体の 60%を占めている。一方、「非常に少ない」、「少ない」と評価した人は、16%であった。このことから、多くの利用者はいなげの浜にはゴミが多いと感じていることがわかる。そこで、良好な海岸づくりのために、いなげの浜利用者の海岸ゴミに対する意識を調べ、その結果を図 - 5, 6 に示した。

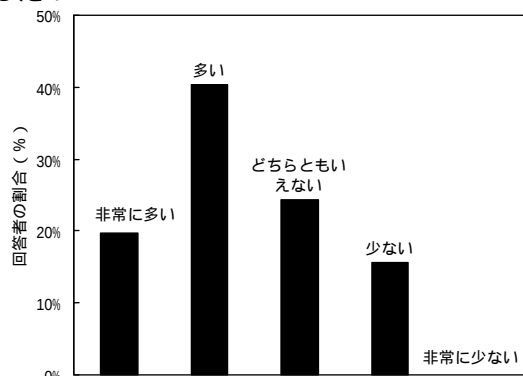


図 - 4 海岸ゴミに対する印象

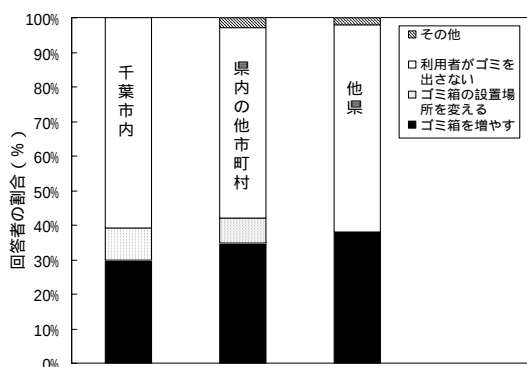


図 - 5 利用者が考える海岸ゴミ対策

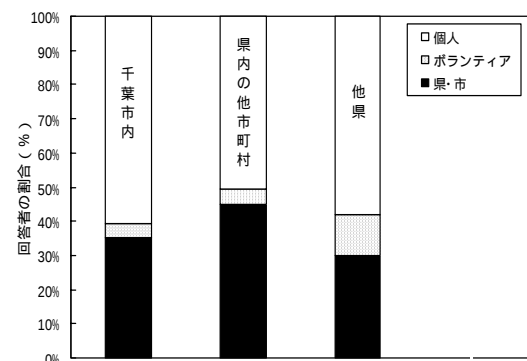


図 - 6 利用者が考える清掃適任者

図 - 5 は、利用者が考える海岸ゴミ対策の集計結果を利用者の居住地別に示したものである。「利用者がゴミを出さない」が全体の約 60%、「ゴミ箱を増やす」が全体の約 34%、「ゴミ箱の設置場所を変える」が全体の 6%を占めていることが分かった。

図 - 6 には、利用者が考える清掃適任者の集計結果を利用者の居住地別に比較した。これによると、「個人」が全体の約 60%、「県・市」が全体の 37%、「ボランティア」が全体の 6%を占めていた。図 - 5, 6 より、全体の約 40%の人は他人任せで自己意識が低いものと考えられる。現状では、いなげの浜の清掃は管理者である千葉市が定期的に行っているが、設問 10, 11 で「ゴミ箱を増やす」、「ゴミ箱の位置を変える」や「県・市」、「ボランティア」と回答した利用者は、定期清掃を知らないため意識が低いのではないかということが考えられる。

そこで、図 - 7 で、海岸の定期清掃の認知度を調べた。これによると、定期清掃を知っている利用者は、「千葉市内から」が 43%と最も高く、次に「他県から」が 20%、「県内の他市町村から」が 17%である。このことから利用者の自己清掃意識を高めるには、定期清掃の認知度を上げる必要があると考えられる。

そこで、図 - 7 で、海岸の定期清掃の認知度を調べた。これによると、定期清掃を知っている利用者は、「千葉市内から」が 43%と最も高く、次に「他県から」が 20%、「県内の他市町村から」が 17%である。このことから利用者の自己清掃意識を高めるには、定期清掃の認知度を上げる必要があると考えられる。

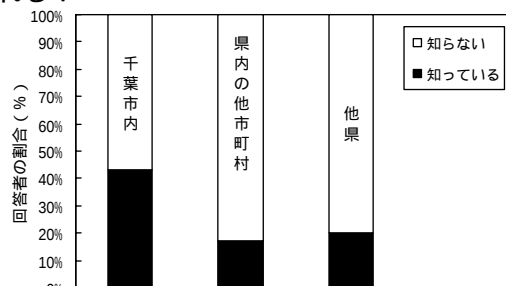


図 - 7 海岸の定期清掃の認知度

4. まとめ

夏季海岸利用者の海岸ゴミに対する意識調査を集計、分析した。その結果、いなげの浜の夏季利用者は、海岸ゴミに対する意識が低いことがわかった。

本研究を進めるに際し、千葉市西部公園緑地事務所には資料提供の便宜を図っていただいた。

参考文献

- 1) 井上雅夫・橋中秀典・近藤雅彦・橋詰雅子(2002): 秋冬季における砂浜海岸の利用実態調査, 海岸工学論文集, 第 49 巻, pp1396-1400
- 2) 小倉あずさ(2002): 美しい海岸を求めて, 海岸, Vol.42, No.1, pp29-33
- 3) 米田規幸・中本尚志・矢内栄二(2003): 人工海浜における海岸ゴミに関する研究, 第 58 回年次学術講演会講演概要集, pp601-602